

市民提案型協働事業実施計画書

協働事業名	みんなで子どもたちを守ります！～（仮）下新倉小学校通学路のフィールドワークと通学路安全マップづくり～
事業目的	1 解決する地域課題の内容 （仮）下新倉小学校は、28年4月開校に向けて、建設計画が進められている。27年度は建設最終段階に入り、第四次和光市総合振興計画基本構想に掲げられた施策の中でも最重要施策に位置付けられている。 建設予定地は、練馬川口線・水道道路に挟まれており、大型車両を含め交通量が多く、通学路での児童の安全確保が大きな課題となっている。 2 課題解決に対する市民ニーズ（課題として提起する根拠等） （仮）下新倉小学校の通学路の安全確保については、（仮）和光市立下新倉小学校建設準備委員会においても課題として議論が出ている他、議会への陳情、要望書等も提出された経緯がある。周辺道路の安全確保は、通学区内の児童と保護者にとって大きな関心事であることは言うまでもないが、新設小学校が市民の利用する図書館、児童館、市民広場等との複合施設であることから、広く公共性のある課題となっている。 3 その他 通学路の安全対策については、新設小学校だけでなく、既存の各校でも継続的に取り組んでおり、各校の校区点検や当会が運営する「和光市地域子ども防犯ネット」の市内全域一斉パトロール等でも安全チェックを実施している。今回、（仮）下新倉小学校については、開校前に校区を点検し、改善策を考えていく一助とする。
問題解決の手法	1 問題解決の方策 ①対象地域の交通状況、安全対策等について基本的な知識を得るための講座の開催 ・警察、県土事務所、市によるレクチャー ・子どもを事故等から守るための点検の視点等について学ぶ講座 ・その他、必要に応じて地域住民や保護者を対象にミニ勉強会等を開催 ②対象地域のフィールドワーク実施 （仮）下新倉小学校の通学路及び子どもたちの活動領域となる周辺道路を中心に、通学区保護者、自治会等に広く声がけして、住民主体のフィールドワークを実施する。 ③子どもたちの安全に資するマップの作成 フィールドワークの結果をもとに、危険箇所等に注意を喚起し子どもたちの安全確保に資する通学路安全マップを、フィールドワーク参加者と一緒に作成する。 ④マップを活用した啓発（対象＝児童、保護者、地域住民、学校）、地域や保護者主体で実行できる対策の考案、危険箇所の改善提案等

	2 問題解決の独自性及び先駆性 実際に地域を歩き、自分たちの目で点検することにより、保護者や地域住民の安全に対する意識向上をはかる。行政等に安全対策を要望するだけでなく、地域や家庭で解決できる部分については自ら動いていく意識を喚起していくことで、通学路とその周辺の安全対策について市民と行政が協働して取り組んでいくベースをつくる。新設小学校開設前に実施することで、迅速な対応をはかるとともに、（仮）下新倉小学校に関わる地域と保護者の連携体制をつくっていく第一歩とする。 3 想定される問題及び対策 通学区の保護者や地域住民の積極的な参加を得ることができるか。 （対策）自治会との連携、運営団体である「和光市地域子ども防犯ネット」のネットワークを通した呼びかけ等を行う
役割分担	1 提案団体が果たす役割 ・事業の企画・運営全般 ・通学路安全マップの最終仕上げ（印刷原稿作成） ・フィールドワーク結果や意見等のまとめと関係機関への連携 2 市に期待する役割 ・市関係部署の連携（教育委員会、道路安全課、危機管理室等） ・マップ作成の台となる地図選定へのアドバイス等 ・活動への参加 特にフィールドワークには関係課から参加し、現地での最新情報の提供・共有をお願いしたい。 ・災害時の避難経路についての情報提供（マップに記載） ・危険箇所の改善に向けた情報共有と市民と協働した取り組み
協働の必要性	1 協働の必要性 新設小学校の通学路を中心とした児童の安全対策については、市と市民が一体となって取り組まなければならない課題であると考え。情報を共有し、児童の安全確保という共通の課題に向けて、それぞれの立場ですべきことをし協力していく信頼関係を維持していくことが必要である。本事業を、新設小学校開設に向け市と市民が協働して新たな校区での関係性を構築し、新設小学校を協力しあいながら育てていく契機にできればと考えている。 2 協働による相乗効果 通学路の安全対策については、行政に対する要望・要求として解決を図ろうとするケースが多いが、一方で保護者や住民の意識が高まらなければ十分な効果を挙げられない可能性がある。市と市民が協働して解決に向けた取り組みを行うことで、対策がより効果的な形で実施されるなど、成果が期待できる。
個別事業の内容 （事業ごとに記入）	1 事業名 スターティング講座 （仮）下新倉小学校～みんなで学ぼう！ 安全なまち～ 目的 フィールドワーク実施前に、対象地域について基本的な知識を得る。どのような視点でフィールドワークを行えばいいのかを知る。 成果 次の活動（フィールドワーク）への意識、意欲が高まる

内容 ①警察、県土事務所、市等による講座

「(仮) 下新倉小学校ってどんな場所？」

②子どもを事故等から守るための点検の視点等について学ぶ講座

講師候補 「子ども安全まちづくりパートナーズ」等

実施日程 9月下旬～10月上旬(予定)

参加予定者 地域住民、対象校区の保護者、学校関係者、

保育クラブ等の職員、自治会、民生児童委員等

実施場所 坂下公民館等の公共施設を予定

予算額 謝礼 40,000円

2 事業名 フィールドワーク実施

(仮) 下新倉小学校～みんなで歩こう！ 子どもたちが通う道～

目的 実際に子どもたちが通う通学路を中心に、危険箇所をチェックしながら歩くことで、危険箇所の実態を把握すると同時に、危険回避のためにどのようなことに注意すればよいのか、参加者自身の意識を高める。

成果 参加者の安全への意識が高まると同時に、新設小学校を取り巻く地域住民、保護者のネットワークが醸成される

内容 コースごとにグループに分かれて地域のフィールドワークを行い、終了後振り返りとそれぞれのデータを共有するグループの話し合いを持つ。

実施日程 10月上旬～10月中旬(予定)

参加予定者 地域住民、対象校区の保護者、学校関係者、

保育クラブ等の職員、自治会、民生児童委員等

実施場所 坂下公民館等の公共施設を予定

予算額 謝礼 20,000 円(ファシリテーション)

3 事業名 子どもたちの安全に資する通学路安全マップの作成

(仮) 下新倉小学校～みんなでつくろう！通学路安全マップ～

目的 フィールドワークの結果をもとに、危険箇所等に注意を喚起し子どもたちの安全確保に資するマップを、フィールドワーク参加者と一緒に作成する。

事業終了後、各グループで作成したマップをもとに、NPO法人こども・みらい・わこうで印刷用のマップ最終版の作成を行う。

成果 フィールドワーク結果を「見える化」することで、危険箇所の情報が共有される。マップ作成過程で、参加者の意識が高まると同時に、参加者同士の連携が高まる。

内容 区域ごとにグループに分かれてフィールドワーク結果を反映したマップを作成する。作成後、各グループのマップを全体で共有し意見交換を行う。

実施日程 10月中旬～11月上旬(予定)

参加予定者 地域住民、対象校区の保護者、学校関係者、

保育クラブ等の職員、自治会、民生児童委員等

	実施場所 坂下公民館等の公共施設を予定 予算額 謝礼 20,000 円 (ファシリテーション) マップ印刷 (2000部) 45,000円 マップ配布先 (予定) (仮) 下新倉小学校入学児童 (全校540名+教職員等予定) 600部 地域自治会等、関係団体、次年度以降入学児童 (90名×3年間) フィールドワーク用マップ・印刷用マップ最終版作成等のための消耗品等 25,000円 事業実施に関わる通信費 30,000円 保育料 10,000円
事業の実施体制	1 人的体制 NPO法人こども・みらい・わこう 理事・事務局スタッフ 計10名程度 さらに運営する団体 和光市地域子ども防犯ネットを通して該当校区役員に呼びかけ当日サポート、印刷用マップ作成等に協力していただくメンバーを募る つながりのある市民の中から有識者、専門的知識を持つ方等の協力を得る。 2 提案する協働事業の特長 (知識、経験、実績等) ・NPO法人こども・みらい・わこうは、運営する市内全小中学校保護者のネットワーク「和光市地域子ども防犯ネット」を通して、犯罪危険マップ作成 (フィールドワーク実施) や、各校区の通学路危険個所のとりまとめ等の活動を行ってきた。(和光市地域子ども防犯ネットは2001年設立。団体の運営本部・事務局により2006年にNPO法人こども・みらい・わこうを設立し、和光市地域子ども防犯ネットの運営にあたってきた。) ・平成21年度～23年度和光市委託事業「公園利用状況調査・公園サポーター養成事業」において、和光市公園マップの作成を行った。 ・今回の事業実施にあたっては、「和光市地域子ども防犯ネット」による各校保護者のネットワーク、自治会との連携、各関係団体等とのつながりを活用することができる。 ・平成26年度 和光市坂下公民館の地域課題講座 ヒヤリハットマップ作成事業 (10月28日、11月4日、5日) に参加協力し、主催者・坂下公民館、講座を主導する「子ども安全まちづくりパートナーズ」との関係性を構築、来年度事業に向けた協力体制づくりを行っていく。
年間スケジュール	4月～6月 準備 フィールドワークに使用するマップ原版の選定・作成 現地の事前踏査、スターティング講座及びフィールドワーク・マップづくりのファシリテーション依頼 対象地域の自治会、保護者等との協議 7月～9月 直前準備 スターティング講座等の打合せ 広報活動、関係機関・団体等への協力要請、連絡 事業開始 スターティング講座 9月下旬～10月上旬 (予定) 10月～12月 事業実施 フィールドワーク、マップづくり 10月～11月 (予定) 印刷用マップ作成、フィールドワーク結果のとりまとめ

	事業報告書の作成（参加者、関係機関等に配布用） 1月～3月 印刷用マップ最終版 完成 印刷 関係機関等への配布
協働の成果	1 団体 新設小学校の通学路について開校前に地域住民や保護者の安全に対する意識向上をはかり、安全対策に資するマップを作成する事業実施にあたっては、市教育委員会から新設小学校に関する情報の提供を頂いたり、道路安全課等から地域の情報提供やフィールドワーク実施へのアドバイス等を頂くことが重要となる。新設小学校をめぐって市民活動団体、保護者、地域住民と行政の信頼関係を構築し、地域における市民の主体的な活動を促進していく効果が期待できる。 2 行政 保護者や地域住民の安全意識の高まり、安全対策への協力体制の構築、フィールドワーク実施による情報の速やかな共有が期待できる。新設校開校にあたって、このような地域のネットワークができることは、今後の学校運営にも資するものとする。 3 地域 行政との協力体制、地域住民と校区保護者の連携ができることにより、地域の安全を守っていくベースとなるネットワーク構築が期待できる。また安全対策に向けた地域住民の意識向上が期待できる。
成果指標	事業への参加者 地域住民・保護者・自治会他 30名以上 通学路安全マップの当初配布 1000部以上 アウトカム指標（通学路の安全対策等に関して保護者・地域住民が連携した主体的な活動が継続する）
事業と関連する団体の特徴及び活動実績	1 提案する協働事業に関連する知識、技術等（団体の特長） ・中村攻氏（現千葉大学名誉教授）の指導の下、「犯罪危険マップ」の作成、フィールドワーク実施等の事業実績がある。 ・平成21年度～23年度 和光市委託事業「公園利用状況調査・公園サポーター養成事業」において和光市公園マップを作成した。 2 提案する協働事業に関連する活動実績 ・平成26年度 坂下公民館地域課題講座（ヒヤリハットマップ作成）への参加協力予定。 （講座で市内における交通及び防犯に関する活動報告を行う） ・毎年、運営団体・和光市地域子ども防犯ネットで各校区から提出される危険箇所等を取りまとめ、関係部署への提出を行っている。
他団体とのネットワーク（協力、共催等）	新設小学校区の自治会 新倉小学校PTA、白子小学校PTA 一般社団法人 子ども安全まちづくりパートナーズ（予定）
事業の実施年度以降のスケジュール	平成28年度（仮）下新倉小学校開校に伴い、通学路安全マップを入学児童・教職員に配布 平成29年度～31年度 新入学児童にマップ配布 マップの活用 ⇒児童の安全教育、保護者・地域住民による定期的な通学路点検等 本事業を契機に、既存小学校区の通学路安全マップについても、定期的に現状を把握し、更新していける体制をつくり、各校の活動をサポートしていく。